

成果 2 パイロット活動 ラ・アミスタ(パナマ、コスタリカ)での養蜂活動の開始

ラ・アミスタでの「生物多様性の保全とこの利用による生計向上の両立」パイロット活動の第一歩は、活動参加農民との生物多様性持続的保全・利用計画の策定である。しかし、今回の場合、活動期間が2022年12月から翌年12月と限られるため、通常1から3月の養蜂の収穫期を逃さず、計画策定に先行して養蜂導入コンポーネントを開始した。なお、養蜂導入の目的は生計多様化による所得安定化、これによる農地拡大・自然資源劣化リスクの軽減、蜂による受粉改善を通じた生物多様性の改善である。今月から収穫期にかけ練習用養蜂器具を用い一連の技術セミナーを開催、セミナーへの一定の回数の参加や樹木や植物の植え付けの達成など、幾つかの条件をクリアした参加農家が次回の収穫に向けて個別養蜂器具一式を受け取る予定である。

両村落に生産性の高いヨーロッパ・アフリカ種の蜂を、Piedra Cadela には、生産性は低い、針が退化して安全、かつ高品質のため高値で取引されるメリポナを導入した。なお、コスタリカでは近年急激に増加するメリポナ養蜂を管理するために同国政府がライセンス制度を導入したため、この導入を断念した。

養蜂は高度な技術は不要、また現時点では市場需要・価格共に安定、生物多様性改善にも有用な貴重な林産資源である。しかし、日々の定期的管理や生産から収穫後処理までの総合管理が求められるため、農家による生産活動の定着は容易ではない。今後、パイロット活動では、収穫後処理までの管理活動の他、販売方法や産品多様化技術のセミナーも開催し、養蜂の実際を農家に伝えていく。



Las Mellizas、Piedra Candela 双方の農家が参加した行われた初回基礎技術説明会



Las Mellizas でのヨーロッパ・アフリカ種練習用器具の導入と技術セミナー



Piedra Candela でのメリポナ種練習用器具の導入